

1. 第 6 回協議会における協議概要

基本構想

- 「これが私のふるさとだ」の「ふるさと」が平仮名表記となり、共感が持てる。
子育ての施策は県全体で取り組んでいることだが、新生児の検診で言えば、山口市独自で実施する検査項目があるなど、他市に比べよく取り組まれている。
そういうところをもっと、アピールすることも大事と考える。
- 21 地域の特長を生かした地域づくりをしていこうということで、構成はいいのかなと思う。
- 人口シミュレーションについて、思わぬ人口減少にも対応できるように、もう少し上振れや下振れの範囲を広げるなど、柔軟的に政策を考えていくことも必要と思う。
- 対外的に、本市の政策アピールを実施する必要があるのではないか。
- 地域拠点構築で、総合支所の機能強化を盛り込まれたのは非常に良い。
- 27 ページの「本市全体の発展を目指す」。これは非常に重要なキーワードで都市核だけでなく、どの地域にも目を配るという決意が表れている。
- 地域のことは地域で解決する、山口らしい地域分権の確立は、広域化した山口市において、予算も含め地域である程度自主的に動ける新しい仕組みのように感じた。
- 地域ごとにそれぞれ異なる特長をだしたまちづくりを地域が考えることは大変重要。
- 市民一人ひとりが当事者意識を持ち、自分たちのふるさとを我々がどう考えるか。
温かくて、皆が帰ってこれるようなそういうふるさとを目指していくような意思表示というか総合計画だと感じた。

前期基本計画

- 新幹線と在来線のつながりが少なく、1 本乗り遅れると 2～3 時間待つことにもなる。
列車の本数を増やすことも考えていく必要があると考える。
- 重点プロジェクトと施策の取組みについて、りんごの木を使って分かりやすい。
ただ、プロジェクトの名称について、修飾語が体言止めであったり、動詞であったりまとまりがない。
- プロジェクト 3 「教育・子育てなら山口」において、現在、保育現場では、特別な支援を必要とする子どもが非常に多くなっている。プロジェクト事業の中に、特別支援の取組みも入れて欲しいと思う。
- 山間部と都市部の交流など、同世代の子ども達の交流を通じて社会性を育てるような取組みも、どこかの施策で取り組めないかと考える。
- 40 ページの「智慧」について、普通の「知恵」でもいいのではないかな。
- プロジェクト 6 「安全安心で美しい住環境」とありますが、「美しい」よりも「快適」、「豊かな」という言葉の方が深い意味を持つと思います。
- 国力、地域力を示す GDP を守るために様々な施策や取組みが記載されているが、最も手っ取り早い方法は、子育てを終えた有資格者の女性を資格の現場に戻す、あるいは、いきなり管理職として復職させる取組みなど考える。

- 国民健康保険被保険者一人当たりの医療費について、少子高齢社会が進展する中で、普通であれば現状維持を目標に据えると思うが、増加のかたちで目標値を設定されている。目標値を維持にできない理由が特にあるのでしょうか。
- 交流人口を増加する上で、観光客のニーズを重視したマーケットインの視点が重要。
- 山口市で一番深刻な問題が、人口減少と空き家の問題である。
5,000件の空き家のうち、売る、貸す、利用することのできない空き家が2,000件ある。恐らく本市の空き家率は、全国平均15.6%に対し、18～20%近くだと思われる。
- 家族の介護や母子家庭などで、自治会の行事に参加したくても参加できない家庭も増えてきている。そのため、自治会に加入しない人も増加している現状にある。ただ、こうした家庭こそ、自治会等の助けが必要であり、こうした問題も考えていく必要がある。
- 山口県は、10万人規模の都市が分散しており、企業誘致により山口市に進出するとなると、周辺市町にも支店を出す必要が出るなど、企業活動の効率性が下がる。企業誘致においては、このあたりも頭に入れながら、考えていく必要がある。
- 市民意識調査の中で、市民が考えるまちづくりに必要なものは、医療や福祉サービス、治安、防災対策、交通の利便性、産業などがあがっている。
こういった市民ニーズと重点プロジェクトの結びつき（並び順など）について、分かりやすく示してはどうかと思う。
- 山口の観光資源も点在しており、それらを周遊する仕組みや、また、それらを紹介するポータルサイトも必要となる。下呂温泉では、こうした仕組みづくりの財源として入湯税を利用している。
それから、KPIは市民に分かりにくいので、日本語の説明など入れると良い。
- これまでも、国体やねりんピックなど全国規模の大会等を通じて、多くの交流があった。今後は、水泳のスペイン代表チームの事前キャンプ地に決まるなど、海外の方との交流も広がってくると思う。
また、山口市は、海水浴からスキーまで、地域の特長に応じた様々なスポーツが楽しめる場所であり、地域資源を生かしたスポーツイベント等の交流ができればと思う。
- レノファ山口と県内の自治体対と連携して地方創生の取組みを進めるなか、スポーツ振興に加え、観光商業振興や健康増進にも取組みを拡げている。
来年からは、高齢者を対象にした健康増進やコミュニティづくりにつながる取組みを展開する予定である。
- 山口県央連携都市圏域の取組みが進められるなか、高校卒業後に市内に若者を留めるには、サービス業の充実でカバーできるのではないかな。
- KPIのひとつに「市内の温泉を利用した市民の割合」がある。これは非常に楽しみにしており、どの程度の数字になるのか。1年に5～6回は利用していただきたいなど。
- 重点プロジェクト「個性と安心の21地域づくり」について、人口減少や高齢化が進む中山間地域などにおいて、日常生活に必要な機能やサービスを集約した生活拠

点づくりは大変重要となってくる。こうした拠点づくりを進める上では、リーダーとなる人材の育成が必要である。県の「やまぐち元気生活圏づくり」では、人材育成やアドバイザーの派遣などを実施しているので、こうした制度を活用していただきたい。

- 地域包括ケアシステムが円滑に機能するためには、それらを支える人材確保が不可欠です。特に、介護職について、賃金が低くて重労働というイメージが強く、人材が不足している。ぜひ、介護分野のイメージアップや理解促進に向けて、学校とも連携し、介護職場の見学や体験活動など実施していただき、離職した介護人材の再就職支援など進めていただきたい。
- 重点プロジェクト1「広域県央中核都市づくり」について、中心市街地の活性化では、行政としてどのような施策があるのか。どういうことをして活性化するのか。
- へき地医療について、地域拠点の医療体制の強化にしたほうが良いのではないか。
- 避難所運営体制の充実とあるが、避難所そのものの数の充実も必要ではないか。
- 湯田温泉では、旅館という屋号で営業されている箇所は5軒。そのうち後継者がいるのが1軒。旅館の数が減れば、湯田温泉の衰退にもつながるので、注意してほしい。

2. 第5回協議会以降、意見書により頂いた御意見等

御意見・御提案

●中心市街地の活性化について、行政としてどのような施策等を考えておられるのか協議会で御質問させていただきました。回答としては空き店舗活用とのことでした。約50年前、阿部橋のところにダイエーが進出し、西門前・道場門前・米屋町・中市・大市と中心市街地は素晴らしい賑わいでした。

しかし、その後、社会情勢は「車社会」へと大きく変化し、市街地郊外に大型商業施設が進出するようになり、山口市をはじめ全国地方都市においては、中心市街地の衰退が大きな問題となっております。

このような状況の中で、「中心市街地の活性化」を山口市総合計画に掲載するための「行政としての施策（特効薬）が本当にあるのか、規制改革・特区制度活用等あらゆる角度から知恵を出し合い検討していかないと、ただ、「空き店舗活用」ぐらいでは、山口市総合計画にならないと思います。

（事務局）中心市街地活性化を図る上で、商店街の活性化と並ぶ重要なキーワードとして、「街なか居住の促進」があり、本市においても様々な施策に取り組んでいます。これは、来街者を増やすほか、居住者を増やすことで、街のにぎわいの底上げを図るものです。

この取り組みの一環として、これまで「借上型市営住宅整備事業」による市営住宅3棟の整備を図るとともに、共同住宅、店舗の複合施設「リュシオル中市」の整備を支援してきたほか、現在、平成31年度竣工予定の共同住宅、商業施設、立体駐車場の複合施設の整備を「黄金町地区第一種市街地再開発事業」として支援しているところです。

また、街のにぎわいの核となる商業施設の整備事業として、これまで「どうもんパーク」「マルシェ中市」の整備を行うとともに、街歩きを楽しめ、居住環境の向上を図る取り組みとして、一の坂川交通交流広場、ほたる広場の整備等を行ってきたところです。

このほかソフト事業として、中心商店街で開催される各種イベントを支援する「にぎわいのまち支援事業」、中心商店街の空店舗を活用し開業する個人・法人を支援する「あきないのまち支援事業」等を、官民連携により推進しているところです。

中心市街地の活性化は、山口都市核づくり、ひいては広域県央中核都市づくりにつながる重要な施策であることから、第二次山口市総合計画のもとにおきましても、これまで取り組んできたようなハード・ソフト両面にわたる事業をさまざまな形で推進することで、中心市街地活性化を図ってまいりたいと考えております。

●へき地医療という表現は、現在、社会全般には使用されているが、山口市総合計画の中では、地点が抽象的であるので変更するよう協議会でお願いしたところです。目指すべき都市構造として、総合計画では拠点①都市拠点②地域拠点③生活拠点に分け、各地点のネットワーク機能を充実することが盛り込まれている中で、「へき地」とは余りにも抽象的な表現でどこを指しているのかわからない。

「地域拠点・生活拠点の医療体制確保」に是非変更してもらいたい。

(事務局) 医療対策において「へき地」とは、交通条件及び自然的、経済的、社会的条件に恵まれない山間地、離島その他の地域のうち医療の確保が困難であって、「無医地区」及び「無医地区に準じる地区」の要件に該当する特定の地域となりますが、「委員からのご意見」を踏まえ、表現を「医療の確保が難しい過疎地域における医療体制の維持確保」に修正します。

●「新市建設計画」、「山口・阿東新市基本計画」の推進とあるが、なぜ「山口・阿東」なのか。ほとんどの市民がおそらく疑問を抱くのではないか。

(事務局) 「新市建設計画」とは、平成16年12月に山口県央部1市4町合併協議会が、旧1市4町の合併後における新市のまちづくりの基本方針や合併後のおおむね10年間にわたって取り組む施策を明らかにするために作成した計画で、現在、期間を延長し、平成32年度までとしています。

また、「山口・阿東新市基本計画」も同様に、旧阿東町との合併時に策定した計画です。どちらの計画も、事業実施の上で、本市が交付税措置の高い合併特例債や合併推進債を借り入れる際の根拠にもなるものです。第二次総合計画期間内におきましても、こうした有利な市債を活用していくこととしており、本文中に明記したところです。委員御指摘のとおり、各計画が合併当時に策定した計画であることがより分かりやすくなるよう表記を改め、用語集にも説明を掲載します。

●「地域づくりの方向性」について、各地域の課題の掘り下げが不十分と思われる。基本構想・基本計画に沿った課題の掘り下げが行われていない。今後10年間に具体的に取り組む重点課題は何なのか全く分からない。よって今後の取り組みの方向性も具体性がなく抽象的だのをえていない。おそらく各地域の「地域づくり協議会」のごく少数意見を把握し、地域交流センター等でまとめたものと思う。本総合計画の中で、「協働によるまちづくり」として、地域づくり協議会の体制強化がうたわれているが、各地域の住民の意見が十分集約できる「地域づくり協議会の体制強化」を急ぎ、行政（地域交流センター）と協働で本総合計画の「基本構想」「基本計画」に沿った「地域づくりの方向性」を示すべきであり、再検討が必要と考える。

（事務局）市内21のすべての地域において、地域づくり協議会が組織され、地域の個性や特長に応じて、主体的に様々な活動が展開されており、また、その活動の指針となる「地域づくり計画」を策定されています。第二次総合計画では、この「地域づくり計画」の今後の方向性を「地域づくりの方向性」として位置付けまして、市として「地域づくり計画」の実現を支援していくこととしております。

「地域づくり計画」は、行政主導による計画の策定ではなく、地域で主体的に策定されており、また、策定にあたっては、自治会、婦人会、老人クラブ、青少協、PTAなど地域におけるまちづくりの多様な担い手はもちろんのこと、広く地域住民も交え協議されています。今後の地域づくり計画見直しにあたっては、より多くの地域住民の皆様が主体的に取り組んでいただけるよう、市としてもサポートを続けてまいります。

●市民アンケートへの対応について、アンケートにある市民からの要望はどのようなになったのかを知らせる。当該計画のどこにあると具体的な施策名を説明されるなどが良いのではないかと。

（事務局）「市民意識調査」は、第二次総合計画の策定に向けて、施策の満足度や将来的な行政ニーズを把握するためなどに実施したものです。調査結果では、今後の山口市のまちづくりに必要なものとして、「高度な医療や福祉サービスが充実したまち」、「治安がよく安心して暮らせるまち」、「産業が盛んで働く場所が充実したまち」などが、求められていました。

こうしたことから、重点プロジェクトとして、「健康長寿のまちプロジェクト」、「安全安心のまちプロジェクト」、「働く・起業なら山口プロジェクト」を掲げたところです。

また、プロジェクトに反映した旨を資料編の市民意識調査結果概要に掲載してまいります。

●重点プロジェクト5「文化・スポーツ・観光なら山口」プロジェクトについて、「多様な主体の連携による観光地域づくりの推進」の多様な主体とは、具体的に何を示されているのでしょうか。観光に係る各関係団体の情報集約、情報共有の機能をもつ組織が必要であり、観光地経営に係る人的資産が求められます。また、「近隣市町との連携による広域観光の推進」として、県央連携都市圏 DMO の推進にも取り組んでいくことが必要であると考えます。

(事務局) 多様な主体とは、観光に係る関係団体をはじめ、文化、スポーツ関連事業者、農林水産業事業者、地域住民など、多様な関係団体を表しています。ご指摘のとおり、観光地域づくりを推進していくためには、こうした関係団体の連携、あるいは組織体の形成により、情報の集約や共有を図っていく必要があると考えております。

以下、いただいたご意見は、総合計画本部会議を通じ関係課に情報共有し、具体的な施策の実施において、参照させていただきます。

【重点プロジェクト2】

●山口都市核と小郡都市核を含む人口集中地域の総人口の約 50%が集積し、「歩いて暮らせるコンパクトなまちづくり」が着実に進む中、市内全域の維持発展のため、郊外居住者の生活利便性の低下を防ぐことが不可欠です。当所は、交通弱者対策として地域住民のニーズと合致する小規模事業者・中小企業者支援に繋げることに取り組んでまいります。山口市におかれましては、平成 28 年 11 月に公共交通に関する市民アンケートを実施され、市民のニーズ把握に取り組まれておられますので、情報共有と連携をお願いいたします。

【重点プロジェクト4】

●取り組みの方向性「サービス業・商工業の多様な雇用の場づくり」において中小企業への取り組みが掲げられています。当所は、誘致企業による雇用・税収効果に加え、域内企間取引の拡充による消費拡大に取り組みたいと考えております。そこで、山口市との連携により誘致企業の情報収集や実態把握につとめ、誘致企業と域内企業とのマッチング支援により産業活力の創出に取り組みたいと考えております。

●取り組みの方向性の「多様な働き方の創出による人材確保」においての取り組みには、働き方改革の促進に取り組む前に、現場である小規模事業者・中小企業者の現状把握、ニーズ調査が求められます。背景として、当所管内小規模事業者・中小企業者においても「人材確保」は最大の課題であり、経営資源の少ない小規模事業者は、企業のニーズにあった人材を確保することが困難な状況があります。

【重点プロジェクト5】

●取り組みの方向性にある「大内文化、幕末維新など固有の地域資源を活用した本市のブランド確立」は、今後の山口都市核の魅力をさらに高めるためには重要であり、山口都市核の歴史と文化を活かした誘客の取り組みには重要成功要因としています。山口都市核と小郡都市核がお互いに補完しあえる連携と役割分担が必要です。新山口駅北整備事業による多目的ホールを活用したM I C Eの誘致を湯田温泉地帯と一体

に進めることや、大内文化特定地域から中心市街地一帯の再整備により、山口都市核のまちづくりを長期的に市民参加のもとで考えていくべきだと考えます。

●取組の方向性にある「おいでませ山口・観光地域づくり」では、湯田温泉の宿泊拠点としての強みを補完すべく、欧米人等の需要を踏まえた長期滞在型宿泊施設の完備による観光消費額の拡大が必要だと考えます。

山口市におけるインバウンドによる外国人観光客も増加し、消費額が大きいことからインバウンド旅行者のニーズに対する取り組みが必要です。福岡市と広島市には、東アジア圏や欧米の方々が多く訪れている現状の中、山口に足を伸ばしてもらうためのインバウンド誘客対策が今後の大きな課題となります。今後の5カ年には、「日本・スペインシンポジウム」、「東京オリンピック・パラリンピック」に向けて山口市と交流の深いスペイン国との友好がさらに深まってくることになります。スペイン国をはじめ欧米の旅行者のニーズである長期滞在型旅行に合致した取り組みにより、インバウンド旅行者の増加、観光消費拡大に繋げることが求められます。

●インバウンド観光誘客の推進に伴い、観光インフラの早期整備など（案内看板、宿泊施設・飲食店などの外国語標記、Wi-Fi対応、外国語対応できる人材の配置、一括免税システムの設置など）インバウンド対応の徹底が求められます。

【重点プロジェクト6】

●市民の主体的な健康づくりの推進は、健康経営の観点から県と市、会議所、商工会等関連機関との連携による企業への支援も必要であると考えます。

【施策1－2】

●基本事業1「健康づくり」の推進において、健康経営という観点から、市民側と企業側に対する施策を希望します。

●ライフステージに応じた健康づくりという観点から、健康・医療・介護等が連携するICTカルテの試験的導入を提案いたします。

【施策2－2】

●施策1－3「高齢者福祉の充実」を踏まえ、CCRCの観点を踏まえた、65歳以上の高齢者のキャリア、セカンドキャリアを生かす活動を地域、家庭等の他、就労の場としての提供も必要だと考えます。

【施策2－5】

●定住人口増加に向けて外国留学生が就労する際の手続き等の簡素化など、外国人就労促進に取り組むことも必要だと考えます。

【施策3－8】

●陸の玄関口である新山口駅の開発が進む中、交通の要衝としての利便性も向上されます。小郡都市核への人の流れを山口都市核へも導くためには、山口都市核の観光コンテンツの磨き上げとともに二次交通の利便性の向上は不可欠です。また、山口県央

連携都市圏域内経済の活性化には、圏域内の移動が円滑に出来るための交通体系の見直しや、道路交通網の整備が必要だと考えます。

【施策４－１】

●当所の目指す外貨を稼ぐ観光の取り組みについては、当所の基本施策です。全国発信可能なイベントを統括しつつ、DMO（観光地域づくり組織）の強化に取り組んでまいります。観光に係るマーケティング機能を強化するためには、現在実施されている「山口市観光動態アンケート」の設置場所などの見直しが必要だと考えます。

●地域ブランド調査（㈱ブランド総合研修所）によると山口県は、35位。地域ブランド調査項目には、地元愛着度が掲げられています。地域ブランドは、市民と小規模事業者・中小企業者からも求められるものでなければなりません。観光地として地域全体の意識醸成に繋がる取り組みの検討が必要だと考えます。

【施策４－２】

●都市機能の誘致や充実を図るには、域内消費を促す地域の小規模事業者・中小企業者の市場規模の維持・拡大と経営力の向上支援が求められます。当所では、人口集積地域のさらなる利便性の向上のために山口都市核・小郡都市核の商業集積及び新産業創出と湯田温泉の利用促進が重要成功要因だと考えております。現在、山口市からの委託事業で実施しております大殿地域、湯田地域、中心商店街での創業、新産業支援事業に加え、新山口駅周辺開発に呼応した新規創業・新産業創出など現状把握による実態調査に基づき、商工会議所として支援の強化を図るため、各種補助金制度の拡充や見直し、新設が必要だと考えます。

また、事業承継の観点においては、市場を支える小規模事業者・中小企業の持続的発展とともに、優先的に円滑な事業承継支援による市場規模の維持のために支援体制の強化に取り組んでまいります。事業承継に係る実態に属した小規模事業・中小企業支援策の検討、研究とともに行政等との協議をしながら取り組んでまいります。

審議会等会議録（概要版）

審議会等の名称	第6回山口市総合計画策定協議会
開催日時	平成29年10月18日（水曜日）14：00～16：00
開催場所	防長苑 2階孔雀の間
公開・部分公開の区分	公開
出席者	田中委員、清水委員 ほか16名（全18名）
欠席者	加登田委員、船瀬委員、原委員、平尾委員、鵜委員、瀧本委員
事務局	山口市総合政策部企画経営課
次第	1 開会 2 会長挨拶 3 議事（別欄参照） 4 意見交換 5 その他 6 閉会
議事	（1） これまでの協議について （2） 第二次山口市総合計画（素案） ①基本構想 ②前期基本計画 【会長】 本日はお忙しい中、本協議会にご出席をいただきまして誠にありがとうございました。これまでの策定協議会の協議を通じまして、皆様から様々なご意見やご提案をいただいた訳ですが、そういったものを含めまして、今回事務局が総合計画の素案というものを取りまとめまして、もう事前に配布されているかと思います。この度の素案をもとにまた新たに追加すべき方向性や視点、あるいは具体的な取組、そういったものを委員の皆さんから意見をいただきながら、来年1月の最終案の策定に向けて、内容をこれから充実していこうということを考えております。本日は第二次山口市総合計画（素案）について、基本構想の部分と前期基本計画の部分の2点を中心にご協議いただく予定です。本日の次第をご覧ください。3番目に議事として、まずこれまでの協議についてということで第5回の概要、それから以降にいただいた意見書、それから中間整理についていただいた意見書、そういったものがこれまでの協議として取りまとめられています。 その次に第二次山口市総合計画（素案）ですね。今回議論していただく部分ですが、これについて基本構想、素案策定に向けた中間整理以降の主な変更点。具体的には将来都市像であるとか、目指すまちの姿であるとか、目指すべき都市構造等について、ご説明をいただきます。そして、前期基本計画として、第6回総合計画策定協議会において今回検討の中心となる部分ですが、施策別計画、それから重点プロジェクト、そういった説明を最初にお聞きすると。その後に意見交換を行いたいと思います。

今回一応素案という形でご提案いただきますので、各委員さんにはだいたい一人5分くらいを目処にそれに対するご意見、コメント等を出していただければと思います。

議事（１）これまでの協議についてということで事務局から説明をお願いします。

【事務局】

（１）これまでの協議について(資料１)について説明

【会長】

ありがとうございました。第５回協議会、それから第５回協議会以降に多くの意見をいただいております。かなりのボリュームがありますので、恐らくコンパクトにまとめてあるということではないかなと思います。何かこれについてご意見ありましたら。よろしいですか。

それでは今回の協議会の一番大きな課題です、第二次山口市総合計画（素案）ということで、挨拶でも申しましたが、素案のご意見、提案については、事務局に説明いただいた後、意見交換の時間をとっておりますので、その中で皆さま方に色々と話を聞かせていただければと思います。

それでは説明をお願いします。

【事務局】

（２）第二次山口市総合計画（素案）(資料２)について説明

【会長】

ありがとうございました。基本構想、前期基本計画についてご説明いただきました。あまりにも膨大すぎて、頭がぼーっとするんですが、これから委員の皆さんのご意見を伺うわけですが、自分の関心のあるところで結構ですので、ご意見を出していただければと思います。前よりはポイントが絞られてきたというか、この総合計画の中でどこにポイントを置くのかっていう所、さっき 29 ページですか、３つのポイントがあると言われていました。そのあたりは色々と絞ってこられたんじゃないか。内容は相変わらずすごく網羅的でちょっと大変ですが、でも個々のことでも結構ですし、全体的なことでも結構ですので、コメントをいただければと思います。

【Ａ委員】

全体的にソフトの面ばかりで、こう見るんですが、多少はハードの面がやっぱりきちんと出ていないと。特にやはり道路公共交通っていうのがちょっと書いてありますが、現実的には公共交通なんかちょっとかなりどっちかと言うと悪い方向に向かっていますよね。例えば新山口から山口に行く交通を考えても現実的には、仮に東京から山口に来ると新幹線でせっかく新山口に来て、それからちょっと遅れが出たら２時間３時間って感じになっちゃうような現実になっていますが、そのことをご存知ですかね。現実的にですねやはり公共交通のこともかなり真剣に考えないと。中身をもうちょっと、列車を増やすっていうことは。もうちょっと

細々と施策を考えられないかなと思います。

【B委員】

「これが私のふるさとだ」という部分が平仮名になっていて、いつでも帰って来られる、やまぐちっていうこと、先ほど説明なさったのはとても共感が持てます。それと、子育てに関してですが、これは山口県全体がやっていることだと思いますが、新生児の検診などに関しても他の都市とはちょっと色んな聴力とかにしても他のところがやっていないところを山口市、山口県全体で見ても設備とかの面もあるので100%とはいってないんだけど、そういうところももっとアピールしていけるっていうところも大事だと思いますし、シビックプライドというところもあります、自分たちがまちをつくって動かしているっていう、そういうのがすごく大切だということで、市民としての自覚も持てるようになったら、そういう政策が出てきたらいいなと思いました。

【C委員】

資料を読ませていただいて、大分、その全体が私も見えてきました。随分よくなってきているなと感じます。今日、一つ思うのが、重点プロジェクトのお話を聞きました。りんごの木のところの説明されました。非常に分かりやすくて、根っこの部分とりんごがなる部分ということで、プロジェクトのところが、りんごの部分ということで、りんごが大きくなってくれたらいいなとの思いですけど、その重点プロジェクトの33ページですが、ここに書いてある文言が小さなことなのか大きなことなのか、ちょっと考えたいなと思うのがですね、魅力あふれる県都づくり、これはまあ体言的な目で、その次の地域づくりも、それから将来を担う子どもたちを育む、とこれは動詞を使っていっちゃる。語尾がばらばらで、起業するなら山口と。山口っていうのを2つ見つけたんですね。働くなら、起業するなら山口で。これぞ山口が一番いいんだみたいな。将来を担う子ども達を育む、その後、「教育・子育てなら山口」っていうふうに。それをりんごの木のところで見たときに、一つ「教育・子育てなら山口」っていうふうに、あとは何とかのまち、何とかのまちっていうふうにしてそのプロジェクトの文言が整理されたほうがいいのか、このままがいいのかっていうのが私の中で、ただの文字のあれなのか、それから「そうするなら山口」っていうのがそこにそのまま入っているのか、私は専門が保育と教育ですのでそういうふうな「教育をするなら山口だ」っていうようなことは非常に私は力を入れて訴えたいものなので、これはすごく嬉しいんですが、皆さんに出すときにそういうふうな一つの文言を揃えるほうがいいのか、そういう力関係がちょっとボリュームのほうがあるのかっていうところがちょっと気になりました。

それと教育、保育の身としては、重点プロジェクトの3を出していただいて、いま保育というのは特別に支援がいる子どもさんというのが非常に多くなってきているんですね。保育の現場でもそういうふうな扱いができる教育者、保育者を育てようということで学芸大も4年前からそういうふうなことを含めてそういう課

程を設けて資格を取るようにしているんですが、そこでニーズがすごく多いんですね。それがこの文言の中に特別支援というか、そういうふうな支援をしていく施策というのが、重点プロジェクトの中にもう少し入ってもらったらいいなっていうことと、施策のほうの子育てのところにも入れてほしいなという思いが私はしました。

それと重点プロジェクトの同じ3ですが、私一つ教育のほうでいつも思っているんですが、これは保育もそうなんですが教育の部分で小学校で地域格差がありますよね。というのが人数で都市部と市街部と、それから山間部と、南部でも少ないですね。コミュニティスクールとか色んな地域が面倒を見るとか、提携してやるとか、教育は非常にやっていらっしゃいますけど、同じ世代での交流といいますか、もっと山間部の子と都市部の子を交流させるとか、だから夏休みには都市部の子が山間部に行ってキャンプとか自然を体験したり、それから逆に山間部の子は都市部に行って色んな意見交換とか同じテーマについて一緒に研究するとかですね。そういうふうな輸送が難しければ、移動手段がなければ、今ごろテレビ会議、テレビ電話みたいな、子どもは、ああいうITなんかが非常に進んでると思うんですけど、そういうものを入れる工夫とか、子どもも同世代の交流といいますか、同年代の交流っていいですか、そういうふうな社会性を育てるって両方の要素が要ると思うんですよね。教育でですね。そういうことをぜひ検討して欲しい。そういう施策がどこかに入っていけばいいかなと私はいいかなと私自身は思っています。

それと大変小さなことかもしれませんが、40ページの自然と「智慧」や「学力」っていう智慧っていうのはやっぱり仏教用語のあの智慧のほうがよくいいんでしょうか。正しい判断を行うほうの「智慧」がいいのか、普通の「知恵」でもいいんじゃないかなって私はそういう気がしております。

それと重点プロジェクト6で、安全安心で美しい住環境とありますけど、美しいというのがありますが、快適とか豊かな環境とか、そういう言葉のほうが深いような意味があるなと思うんですが。以上です。

【D委員】

産業関係で申しますと、一点。いわゆる国力、地域力はそこのGDPであると思っています。これに関して、いまある資料の中の12ページ最初に、国際環境の中にGDPが出ております。そしてその下の産業・雇用構造の中の1行の中に女性の労働参加率の上昇というのがありまして、また42ページには女性の労働参加率70%以上の目標というのがございます。あと一点、100ページから政策グループ4の中で、それぞれだいたい産業に区分された取組と最後に政策5の就労環境の充実が110ページにありまして、ここに働き方改革などが書いてありますが、何が言いたいかといいますと、実を言うとGDPを守るために色々な施策、取組がされておりますが、いま最も手っ取り早いのが元々、より能力のある一人の人間を非常に低能率でしか雇用していない、育てないという現状に女性の問題があり

ます。女性が一旦職場を出産や子育てでリタイアし、新たな職場で働くときに、今、就労率はどんどん上がっていますが、そのほとんどが非常に生産性が低い職場での労働に勤めています。これを有資格者、あるいは正職員におけるキャリアを十分買った形での即刻そういうところに取り上げる。有資格者を資格の現場に戻す、あるいはキャリアの女性をいきなり管理職として登用する、そういった形の方向性がこの 110 ページだとなかなか見られてこない。何かこう言っているだけではなく、これには色々な問題もあり、企業の雇用の問題もあります。また一部保育なんかは国策によって給与の高額指導ということもやっています。いわゆる塾、教育、あるいは商業、経営、そういったこともいくらかでも出来ますので、とにかくせつかくあるキャリアの人を元のところに戻すという方向も取り入れていっていただけたら、一番これが新しく今からつくり出すのではなく、いまあるものを使うという手っ取り早い方法だなと思っています。

【会長】

ありがとうございました。非常に重要な指摘であり、私も女性の就労率、労働参加率のところしか見れないんですね。女性が働くために、さっきおっしゃったように、やはりその環境ですね。育児だとか、保育環境だとか、ライフイベントを過ごすときにどうやってまちとして受け入れるか、そういう体制をつくれるかっていうことが大事なお話だと思いました。

【E委員】

今回の基本構想について非常に全編的によくつくられていると考えています。その一つのコンセプトとして「これが私のふるさとだ」という、そういう住んでいて、住んで良かった、これからも住んでみたい、あるいはずっと住んでおって良かったなあと、こういう、言わば外に向かっての山口に住んでいる方、市民の方がそういう誇りを持ってこういう情報を発信できるような形ということで私も考えていますので、非常にいいのかなと。その中で広域県央中核都市の関係で8つの方針をされておりますし、またその21地区の地域特長を捉えた地域づくりをしていこうということで捉えてありますので、構成の中では非常にいいのかな、全体構成は。ただ私はJAの関係でいま仕事をする中で、そういう一つの視点でこの前段にもちょっと書いてあったんですが、島根県境、阿東のほうから瀬戸内のほうの関係も、そういうことが若干書いてあったんですが、その辺のことも1,023k㎡の中に書いてあったと思う、最初のほうにですね。そういう特長的な気候だとかそういうことだけでなく、山口県も言っているように、三方が海に囲まれたじゃなくて、出ていけるっていうんですかね、そういう発想的なものも山口市の中に瀬戸内方面のそういう出ていける、あるいは山陰方面にも出ていける、観光だとか産業についてもそうですし、交通の拠点ということでご承知のように陸の玄関で新山口駅付近のことも書いてありますので、全体的には非常にいいのかなと。ただその中でもう少し先ほど言った、誇りに持てるようなところのそういう「これが私のふるさとだ」中也の詩ですが、そういう気持ちになっていただ

ければ、先ほどの人口動態もやらないような形でここにずっとまた定住していこう、あるいはここに移住して来ようという気持ちにもなるのではないか。その中で、各21地域での充実した政策、それともう一点はこの8つの大きな柱の中に今、GDPのお話もありましたが、やはり夢ばかり追っていたのでは飯は食っていけないということでもありますので、そういうことを含めて、教育・文化都市ということだけでなく、所得の関係もある程度盛り込んでいただけたら非常に目指す方向の中に今こういう農業生産の所得はこういうものに動いているからこういうふうに移っていく、KPIも中に書いてありますが、例えばそういう商業関係でしたらこういうふうに移っていききたい、そういう10年先のことも見据えたそういう、より具体的なことは非常に難しいかもしれませんが、そういう方向性というのは必要ではないかなと考えています。ひとつ宜しくお願いします。

【会長】

ありがとうございます。今、ふるさとという言葉が出てきました。ふるさとを我々がどう考えて、どうこれからつくっていくかっていうことを多分問われているだろうと思います。中也のふるさとっていうのはお前、何をしてきたんだっていじめられるような冷たいふるさとであった。種田山頭火にとってみると、ふるさとに帰りたいんだけど帰れないというようなですね。だからそれを含めて、さっきありましたが未来志向でふるさとをやはりポジティブに捉えていけるようなふるさと、あたたかいふるさと、何でも受け入れられるような、だから総合計画のキーワードはふるさとだなと、さっきから私も話を聞いていてそう思いました。

【F委員】

これを拝見させていただいて、とてもよく出来て、考えておられるということなんですが、結局人口が減少する中で他の市、他の地域、他の都市に比べて、人の取り合いということになると思うんです。その中で本市はどれくらい他の市との違いをまず出せるかということで魅力度が違ってくると思います。ここに書いてある色々な形態が色々な目で見ると、どこの市もいろいろ考えられているので、その辺は本市も負けずに考えられていると思います。

それとやはり人口のことも書いてありましたが、これを見ると人口が何年くらいでどれくらいのシミュレーションが書いてありますが、上振れもですね、下振れの範囲の中で柔軟的に政策を考えていかれたほうが将来的にもその時、思わない方向で人口減少等があってもそれに対応しやすくなるのではないかと考えました。

それとどういうことでこの山口市をアピールするかということで、例えば待機児童の問題もありますが、今どれくらい待機児童があるっていうのは、私は存じていないんですが、とにかく何かで例えば山口市は待機児童を解消したとかいうような、そういう施策のアピールがあれば色々な新聞とかニュースとかで山口市は頑張っているなど、こうやって率先して一つのところで成功させて引っ張っていければ結果的にアピールになって、人口の流入も伸びるのではないかと考えてい

ます。その辺もしっかりこれからも実際の具体的な施策に反映させてやっていただきたいと思います。

【会長】

ありがとうございます。非常に重要な指摘だと思います。さっき言われたような例えば待機児童が減ったとか、ゼロとかいうのは、やはりアピールすることがすごく大事。それがさっき出ていましたりんごの木の太陽だと私は思っていて、そうするとまた人が集まってくる、そのきっかけにもなるということで、すごく大事なご指摘ではないかなと思います。

【G委員】

私も素案については非常によく出来ているなと思っています。網羅されていますので、P ができて、いかに実行するかっていうのが、具体的に実施計画をどういうふうに立てられるのか、また進捗管理、PDCAがどうまわっていくのかっていうのが今からではないかなと思っています。

あとはちょっとお聞きしたいんですが、56 ページの成果指標、国民健康保険被保険者一人当たりの医療費が28年が432,232 円で、平成34年が521,000 円、39年が608,000 円と増えており、少子高齢化で増えていくんだと思うんですが、普通だと現状維持が目標だと。それは難しいという何か理由は出されていますか。またKPI も、目標を何故立てたっていうのは市民に分かりやすく説明、理由を提示していただければいいのではないかなと思います。

それと、金融面、財政見通しの168、169 ページに、平成35年までの財政見通しが出されていますが、KPI では50 ページに将来負担率、平成28年基準値が36.1%という形で、目標KPI 平成34年の数値を決めるということになっていますけど、将来負担率とか経常収支比率、財政の比率についても169 ページに年度ごとに分かりやすく常に目標値を出していただければ市民に対してのアピールができるのではないかなと思いますのでよろしくお願いします。

【会長】

ありがとうございました。健康保険について説明がありますか。

【事務局】

一人当たりの医療費の設定ですが、団塊の世代の方々が、平成36年に全て後期高齢者に移行するというので、普通に考えれば医療費が下がってくるというのは考えられるところではあるんですが、やはり第二次ベビーブームに生まれた方がまた高齢者になるということや、医療の高度化の影響もありまして、医療費が増加傾向にあるというところで、こういう数字を推定させていただいております。また国のほうも平成24年から37年にかけては、国全体の医療費にかかる社会保障給付費が1.5倍になるというような推計も出されておりますので、そのあたりでこういった値を設定させていただいております。

【会長】

ありがとうございました。

【H委員】

重点プロジェクト7の「文化・スポーツ・観光」プロジェクトですが、私が山口で暮らして思うのがやはり歴史があって、あと文化の観点で言うと美術館とか博物館とか、非常にたくさんたくさん触れる機会があり、非常に充実しているのではないかなと思います。歴史とか文化とかそれから、スポーツもレノファをはじめとしてですね、そういったコンテンツが非常にたくさんあって、珍しいSLやまぐち号など、山口って無い物ねだりしてもしようがないどころか、たくさんいいコンテンツが元々あるんですよね。これって、他の市町の方からするとすごく羨ましがられるくらいの実はコンテンツがここにあるのであまり、「新しいことを」と背伸びして考える必要はないと思います。そういったところをもう1回見つめなおすといいますか。先ほども仰っていましたが、考え方とか見方の発想の転換というか、そういうことでいけば、誇りとかそういったものというのは自ずと生まれてくるのかなと思います。

一方で、先ほどおっしゃった定住人口がまず第一、交流人口の拡大というのがその次というのがあります。優先順位というのはそれはそれで構わないと思うんですが、こういうところを出して、観光の観点で私よく最近思うのは、地元のほうで山口の皆さんが観光に来られる、市外の方に見てほしい、体験してほしいという事柄と、市外から来られる方が山口で体験したい、見てみたいというものと、ギャップがある場合があります。ということを感じることがあります。ですので、やはり交流人口拡大っていうことをやっていこうと思えば、マーケットインの考え方ですね。よそから来られる方が何を求めているのかということに、柔軟に対応するという姿勢でお迎えをするということを考えられたらなと思います。

あと最後に定住人口を含めて、人口はどこも減っていくトレンドにこれから、もう既になっております。なかなか増えるっていうことは現実的にありえないですから、いずれ少ない人間でこの社会基盤をまわしていかないといけないということが現実としてあります。生産性を高めて効率的に生活ができていくという社会基盤というのを、やはりこれは10年、20年で見れば考えて、心に留め置いていけたらなと思います。ですので、便利に越したことはないんですが、隣に家があって、郵便局があって、どこかに行こうと思えばすぐにバスに乗れてっていうのはすごく便利なのかもしれないですが、なかなか現実としてそういうものではないので、どこか生活の中、日常生活の中でも、一人ひとりが我慢をする部分というのも必要なのかな、そのようなことも思います。

【会長】

ありがとうございました。すごく重要な指摘だったと思います。124 ページに山口市の周辺の絵が書いてありますが、こんなに絵ソースの多い、それも一つのまちの中にあるっていうことがちょっと奇跡というか。温泉もあるし、ちょっと驚きなんですけど。これはやはり今いわれたような考え方でさらにそこを強くする、そういうこともすごく大事なような気がします。海から山も、文化、色んなもの

すごいコンテンツがあるので、そういうことも含めながらやはりできるだけメリハリつけて、計画を建てられたらどうだろうかと思います。

あと、来た人の考え方に、受け入れる側の考え方を何とか変えて、それはやはり外部の人の意見も聞かれるとすごくいいんじゃないかと思います。

【Ⅰ 委員】

いま山口市で一番深刻な問題になっているのは人口減と、空き家の問題です。山口県はだいたい中央と地方の格差がものすごく激しいのはご存知だと思いますが、発展している地方都市というのは必ず近隣に大都市を抱えているわけです。ただし山口県は、特殊な県でありまして、最近やはり下関と岩国の人口減が著しく酷くなっています。これは広島県と福岡県の方へ流れていっているわけです。一方、山口市も65歳以上の人口は格段に増え、若い人はどんどん出ていって、直近の調査では山口市の空き家調査をしたら約5千件くらいの空き家があって、その中で売ることもできない、貸すこともできない、利用することもできない、いわゆる3悪の空き家が約2千件くらいあるという大変な状況に陥っているわけです。また一方、空き家の率というのが全国平均でいくと約15.6%と言われている。何年か前の調査で約820万戸というのがある。ただ山口の場合は恐らく私のこの調査だと、18~20%に近くなっているのではなかろうかと。これ空き家は30%を超えますと、その市町が崩壊する恐れがあるということで、実は夕張が33%の空き家で崩壊したんですけど。こういうことが一つは我々の後ろにあるということを前提で、大変よくまとめられている重点プロジェクトの2番と4番について、38ページに重点プロジェクト2 協働による「個性と安心の21地域づくり」とありまして、移住者数、農山村エリアにおける転出、それから問題はここの3番に地域行事や市民活動に、年1回以上参加している市民の割合というのが非常に重要なことで、実は山口市は自治会、町内会の加入率が異様に低いままなんです。どういう訳かと言いますと、全体的に全国的にもそういうことはあるんですが、実は町内会、自治会で、色んな作業に参加する場合、最近でしたら例えば溝掃除とか、色んな町内会の行事があってそれに参加していただきたいと。参加されない場合は山口の場合、出不精代とかで3千円とか5千円とかお金をとるんですが、実はこれが非常に負担になって、自治会活動に参加しないという人間が増えているわけです。昔は、私みたいに少し歳をとったような者は町内会でお祭りとか色んなことがありました。恐らくはほとんど家庭の人間は参加していたんですが、最近やはり介護の人間を抱えているとか、あるいは母子家庭であるとか、一人暮らしであるとか、そういうことで町内活動に参加したくても出来ないという人間が増えています。そうすると、それならそれで、費用を払ってくれと。それならもう初めから町内活動に参加しないよ、という人間が非常に最近増えています。ところが、介護の人を抱えているとか、母子家庭だとか、父子家庭とか、そういう立場の弱い人たちにこそ、町内とか自治活動が必要なのではないだろうかと。逆にそういう人に手を差し伸べていかないといけないのではないかと。

これを痛切に最近感じて宅建協会も山口市と自治会との間に協定を結んで自治会活動に参加していこうという一歩を踏み出したのが、今年の4月になります。こういうところもやはり考えていかなければならない。

それからプロジェクト4に働くなら、起業するなら山口「産業活力・地域雇用創出」とあります。その企業誘致に関する事で、従来のような企業誘致は非常に難しいのではないかと。山口県はこの全国でも特殊な中核都市をもたない都市ですので、いわゆる10万程度の人口が串団子のように繋がっている県ですので、例えば仮に私が〇〇という大きな事業を起業しようと。そうすると、山口で起業。山口は行政の中心だけど、人口は10万か。じゃあ下関か、下関は人口が30万くらいいるけど、行政からはちょっと遠い場所にある。そう考えると、例えば私が山口で起業しても10万であれば、待てよ、これは防府に支店が要るかとか、周南に支店が要るかとか、あるいは宇部に支店が要るかとか、こういう形になって、平坦線が非常に延びていって、効率が悪いということが出てくるわけです。従って、なかなか企業が山口に来ることがなかなか難しい。最近、広島の大きな輸送関係の会社を今度山口に誘致する、これはだいたい土地が2千坪いるんだとか、やはり我々の不動産の業界にしてもなかなか情報が掴みにくいというところがあるわけです。この企業誘致に関しても、そういう形で人口の問題とかあるいは高速道路の問題だとか、色んなことを抱えながら、誘致を今後、考えていかないといけないと思うんです。目標は非常に結構です、25社、300人。これはやはり行政のほうも例えば、その関連する団体、組織のほうに情報を的確に流していただきたいと思っています。

【会長】

ありがとうございました。重要な指摘で、やはり自治会という組織の繋がりがだんだんなくなってきた。私が旅行に行って思ったのが、昔はヨーロッパであれば教会とかそういうところを中心にぐるっと集落があるんですね。集落がぽつんぽつんと離れていて、それぞれでコミュニティをつくっています。いま、日本の場合はその集落が元々あったんだけど間に色んなものが入ってきて。私は平川にいますけど、平川は本当に新住民ばかりですね。そうすると、お互いの繋がりがあって言うんですかね。大事なのは先ほど言われたように、そういう人たちをどう導いたらいいかっていうのが。例えば災害のときとかですね。すごく重要な指摘に感じました。

【J委員】

素人的な話で恐縮なんですけど、市民意識調査結果というのを最初にいただいたんですが、市民意識調査の中に、今後のまちづくりに必要なことというのを書く欄があってその上位1番から5番くらいまで見ると、医療や福祉サービス、充実したまちだとか、治安が良い、防災対策がしっかりしている、誰もが市内を自由に動き回れるような交通の利便性が高いこととか、産業が盛ん、働く場所がある、そういうまちがいいな、そういうのが必要なんだっていうふうに。市民のその意

識としてあるわけです。これが要するに山口市に住んでいる環境に照らし合わせてみた、みんなの希望なんだろうと思う。ニーズなんだろうと思うんですね。そのことと、今ここで掲げようとしている重点プロジェクト、それをどういったふうに結びついていて、それが目標値としてニーズの強い順番からどんな順番に並べてあるのか。そこって分かりやすいようにしたらどうかなとは思いますが。

【K委員】

今日、ハローワーク山口の野村所長と午前中話をしていたんですが、山口市のほうも非常に有効求人倍率が高くなっているということで、これはフルタイムとパート合計した数字なんですけど、その中でも働きながら転職希望を考えていらっしゃる方の割合があるので、実質的には、やはりそんなに高くないんじゃないかということも言われておりました。それを観光業の中に当てはめてみますと、昨日までAという旅館にいらっしゃった方がBという旅館に移動して、それで今度またお会いするとCという旅館にいたというような、人が観光業の中で結構流れて人が動いてるというようなことがあります。一つ言うと、安定した職業ではない、ということが言えるのではないかと思います。旅行会社さんでもしかりです。Aという旅行会社からBという旅行会社に移ったりということも比較的多く見受けられるようになります。私以前、旅行会社にいましたので、皆さん旅行っていういわゆる観光旅行で外に行く、観光物見遊山的な考えがありますが、いまの山口観光コンベンション協会にお世話になりまして、今度人を呼び込む誘致をするという逆の流れの立場になりまして、こういったことが地域の経済の活性化に非常に重要な要素を占めると考えています。湯田温泉の宿泊人数も60万に増やすという計画もございますが、これが及ぼす経済普及効果というのは本当に大きなものです。そこでいま観光課さんのほうとも、山口市版のDMOというようなものをどういうふうに作っていくかということで、検討しておりますが、さっきのH委員が言われたように山口市内というのは周辺市町を含めて非常に観光主体というのが多くあります。ただそれが残念なことに、点在をしている、ということがあります。例えばS Lは山口線を走って、津和野まで行く、ということもいいんですが、それ以外の列車を使ってそれ以外の地域、阿東を楽しむ、徳地で楽しむという楽しみ方をつくりあげるようなことをやっていかないと、折角の素材が全然磨かれないということがあります。山口としては、やはりこういうふうないわゆるインフラの素材を紹介するポータルサイトっていうのを構築するような組織が必要じゃないかと思います。ただ、そういった組織を立ち上げるにはやはり財源というものが需要ですが、こういったものに例えば湯田温泉の入湯税150円、それから日帰り50円とかありますが、そういったものをトップのほうからのおもてなし事業に導入すると。これ、岐阜の下呂温泉がすでにやっていますが、そういったものも検討をしていって、観光と経済の活性化をさせていくのも一つじゃないかと考えています。

最後にK P Iということが、これは多分、重要業績の評価指標という言葉でない

かと思うんですが、この言葉は一般的に世間に流れると分からない人いますので、できればK P I の後ろにかっこでその活字名を入れていただくと、よろしいのではないかとG D P とか。それから昨日も会議があったんですが、P D C A ですか plan-do-check-action という言葉がありますが、ちょっとその後ろに入れていただいたほうが、高齢化も進んでいますので、ぜひ宜しくお願いします。

【会長】

重要な指摘だと思います。読まれる方は多分一般市民の方なので、分かりやすいように、説明をつけるとかですね。ぜひそういう配慮をお願いしたいと思います。

【L委員】

今までにも意見があったと思いますが、今まで山口市におきましては、国体から、ねりんピック、そしてインターハイと、大きな全国大会規模の大会が開催されています。そういった中で、イベントを通じての交流というのは今までずっと出来ていたと思っていますが、今後は特に 49 ページに書いてありますように、山口市においては卓球の石川選手、柔道の犬野選手、サッカーの久保選手というトップアスリートがいらっしゃいます。それから、現在水泳についてはスペイン代表チームの事前キャンプ地に決定しています。そういった中で、国内外でも、海外の方との交流がさらに今から求められるのではないかと考えています。それで、またレノファ山口さんにおかれても、まちづくり、そして交流人口の増加にご尽力をいただいていますので、お互いに連携しながらいけば、ここに目標があります目標値に近づけるのではないかと考えています。

それから地域のことは地域づくり協議会で解決していくということですが、山口市は海水浴が出来るところ、スキーが出来るところ、と幅広い地域です。地域の資源を生かしたスポーツイベント等の交流ができればと思っています。

【M委員】

まずプロジェクト7の2に挙げていただいています、私どもサッカーのチームで維新公園を中心にお客様に来ていただいて、試合を年20回開催させていただいておりまして、地方創生と一緒に全市町さんと一緒にやっというスタンスでいま進めているんですが、こういった取組を今回お配りした資料の01と書いたページの左下の部分を各市町さんを中心に比較的に言うとスポーツ振興というのは当然なんですが、観光商業振興と、健康増進と書いてあるところを各市町さんと取組をさせていただき始めました。一方で来年から、維新公園での試合を、サッカーっていうのはだいたい2時間試合があるんですが、2時間実質稼働していますが、約5時間くらい稼働としてここに書いてある観光商業振興、健康増進といったようなスパイスを入れた場所。具体的に申し上げますと、各市町さんの観光ブースですとか、それから現在出ていますがそこに高齢者という言葉が適切か分かりませんが、ご高齢の方を対象とした健康増進ですとか、それから結果的にコミュニティづくりに繋がるようなスペースをつくったりして、この中身で言いますと、重点プロジェクトの5に近いような形の連携をしていただければ、我々

としても、自分のところのPRですが、ありがたいと思っています。その理由の大きな一つとして、我々はサッカーのプロのリーグで参戦して今年で3年目になるんですが、根拠のない、あくまでご本人の申告なんですが、レノファを応援し始めて風邪をひかなくなったとか、喘息が治ったとか、脳に腫瘍があって入院して余命3か月だった人が退院してご自宅にいらっしゃるとかっていうお話を聞くようになりまして、科学的根拠も医学的根拠も我々は説明できませんが、言っているご本人の話を真実だと思っていますが、そういう事象が起きています。これは全国にそういった事象があって、ある会社さんと健康づくり、それからこういった結果的な生きがいによる、病気にならない、みたいなものがあるのではないかという話を、取組をやっていく中で、言葉は不適切かもしれませんが、高齢者ゾーンみたいなものをお作りして、試合の外に来ていただいて、試合を見ていただかなくてもいいですが、そういった場を提供いくことも考えています。なので、ぜひ具体的な取組をやっていく時の話だと思いますが、一緒に取組みさせていただくようなことがあれば、お話いただければと思っています。

最後に参考までに、某市では、山口で言うと21の自治会単位くらいなのでしょう。ご高齢の方がその地区で外に出て体操とかを促進しているような団体がいらっしゃいますよね。そういったところにうちの選手を、不定期にはなるかもしれませんが、派遣をさせていただいて、なかなか出て来られない方がいらっしゃるとかで、できるだけ体操に出て来られる方を増やすとか、時間にもよりますがお子様とか皆さんが来ることによってその場のコミュニティができてくると。そういった取組をやろうとしています。なのでぜひ山口市さんとも一緒にそういったことが出来たら。お膝元ですので。と思っています。

【N委員】

冒頭にご説明がありました16ページ、サービス施設の立地する確立が50%及び80%となる自治体の人口規模というところでの、その前のページの広域県央中核都市づくり。また、山口県央連携都市圏域で7市町ですね。こちらのほう若干触れられていらっしゃいます。山口県央連携都市圏域で山口市と宇部市が中心となって隣接する市町と一緒にあって、山口圏域を引っ張っていかう、そして山口県を引っ張っていかうというような取組ですね。いまかなりウェイト高く考えているのではないかと拝察しています。この総合計画自体が山口市の総合計画というところで、山口市内のことについて触れていくという部分での前提条件と、重点プロジェクトで言いますと1の36、37ページの広域ネットワークの強化というところで、連携中枢都市圏の取組推進、山口県央連携都市圏域ビジョンの推進というところで触れられている部分なんですが、色んなこれまでも出てきている課題、そういったところを特に人口の減少、定住人口の減少、また人口の増加に結び付けるとか、特に定住人口っていう部分では若者ですね、特に高校を卒業して、市外のよその県に出ていってしまう、または市内の大学を卒業されて、よそのほうに出てしまうであるとか、そういった若者の定住減少というところも、都

市化っていうサービス業の充実みたいなどころからある程度カバーできる、補えるっていうところが出てくるのではないかなという部分では県央連携中枢都市っていうところの取組っていうのはもうちょっと触れてもいいのかなっていうことを率直に感じた次第です。

ただ個人的には重点プロジェクト7「文化・スポーツ・観光」ですが、このKPIの指標の中に、この1年間に地域のまつりへ参加したり、市内の温泉を利用した市民の割合という項目に非常に期待しており、特に市内の温泉を利用した市民の割合という数字がどれくらいなのかと、それをどれくらいに引き上げられるか。あるいは一人ひとりが年に5～6回は利用して欲しいなというふうに思っています。

【O 委員】

重点プロジェクトの関連で2点述べさせていただきます。まず、重点プロジェクト2「個性と安心の21地域づくり」についてです。山口市は面積が広くて、中山間地域、農山村地域を多く抱えています。こうした地域では、計画にも掲げてありますが、総じて人口減少、高齢化が進行し、担い手不足あるいは集落機能低下などが進んでいますので、日常生活に必要な機能やサービスを集約した生活拠点づくり、これが大変重要になってくると思っています。こうした拠点づくりを進めるに当たっては、やはり地域づくりのリーダーとなる人材育成が不可欠で、例えば地域おこし協力隊のような外部からの人材などさらに進めていただくとともに、地域の住民の方が主体となって専門家や大学生等、若い方々にも参画していただいて、地域の将来プランを作成する。それに基づいて、地域の関係者が協力、役割分担しながら取組を進めていく仕組みというのが大切になってくるだろうと思います。

また、県では中山間地域における拠点づくりやネットワークの形成といった取組を「やまぐち元気生活圏づくり」として市町の皆さんと連携しながら支援をしておりまして、人材育成やアドバイザーの派遣、基盤整備に対する助成などを実施しておりますので、こうした制度を活用していただきながら、生活拠点づくりを進めていただければと思っていますのでお願いします。

2点目は重点プロジェクト5「健康長寿のまち」に関してですが、地域包括ケアシステムの構築に向けた取組についてです。皆さんご承知のとおり、地域包括ケアシステムというのは、介護や支援が必要な高齢者に対して医療・介護・予防・住まい・生活支援に関するサービスを行政や医療、介護の関係者だけではなくて、地域住民や社協、老人クラブ、ボランティア、自治会など、そういう地域の様々な主体で連携して、地域ぐるみで提供していくものでございまして、これは安心して暮らせる地域づくりを進める上で基盤になるんだろうと考えています。こうしたことから、市内21の地域拠点づくりと連携しながら、それぞれの地域における高齢者の実態やニーズ、あるいは地域資源の状況など、地域の実情を踏まえた地域包括ケアシステムの構築をシステムの中核となります地域包括ケアセンタ

一の機能強化、あるいは設置拡大を図ることによって進めていただければと思っています。また、システムが円滑に機能するためには、それらを支える人材確保が不可欠です。特に介護職について、賃金が安くて重労働というイメージが強く、若い人が避ける傾向にあり、将来的にも大幅な人材不足が見込まれています。こうしたことから、ぜひその介護分野のイメージアップや理解促進に向け、学校等と連携して、いま小中学生等、若い世代を対象とした介護職場の見学や体験活動などを実施していただくとともに、離職した介護人材の再就職支援や、いま専門家が不足していますので生活支援サービス等で高齢者の担い手としての参加促進などに積極的に取り組んでいただけたらと思っていますので、よろしくお願いします。

それから、確認を最後にさせていただきたいと思いますが、1点目は25ページの(1)あらゆる世代が 健やかに暮らせるまち の3番目の・高齢者人口が云々とありますが、人口は要るんでしょうか。どうなんでしょうか。それと、2点目は36ページですが、K P Iで湯田温泉の宿泊者数が基準値54万人で目標値60万、これは増加しているんですが指標の推移は維持となっていますが、どうなんでしょうか。目標値は上がっていますし、交流人口も上昇ですので、スタンスとしてもここはぜひ増加ということで。よろしくお願いします。

【会長】

地域づくりの拠点だとか、介護の人材育成っていうのはすごく大事な話で、特に山口市にはたくさん大学もございまして、上手に連携されると、学生も動員できるかもしれない。それから最後の質問で簡単に答えられるものがあれば。

【事務局】

高齢者人口は誤植でございました。人口 の部分を削除させていただければと思います。

そして湯田温泉の宿泊客数、ご指摘いただいたように、人も伸びております、そして一人当たりの単価も伸ばそうという議論もありますので、こちらも増加という表現になるように、また検討させていただければと思います。ありがとうございます。

【P委員】

事前にこの資料を送っていただきまして、ずっと目を通しましたので、4点くらい私の意見と質問を兼ねて発言します。まず基本構想の中で、地域拠点の構築で総合支所の機能強化を盛られたことは非常に良かったのではないかと思います。もう1点O委員が言われましたが、私も25ページの目指すまちの姿の中の高齢者人口については主語が明確でないなあと思っていましたので、これは解決しました。次に基本計画、重点プロジェクト1 魅力あふれる県都づくり「広域県央中核都市づくり」の中の36ページの一番下に、中心市街地等の活性化ということで、中心市街地活性化を図る計画の策定という表記がありますが、それ以外の山口駅通りのパークロードをどうするかとか、湯田温泉をどうするかとか、亀山公園ど

うするかとか、小郡都市核についてはどうするかっていうのが少しづつ何か書いてあります。こういうことをして、こうしますって。中心市街地の活性化については行政として何の施策があるのか。ちょっとお尋ねしたいというのが1点と、それから、もうちょっとその辺を書けるのであれば、この中心市街地活性化の中にもどういうことをして活性化するよという表記が必要なのではないかと。他のところは少しずつ書いてあります。ということを私は思いました。

それから次に39ページですね。協働による「個性と安心の21地域づくり」の中で、2協働によるまちづくりに住民自治の強化や、地域づくり協議会の体制強化に向けた支援というのがあります。地域づくり協議会というのはどういうことでつくられたのか、私は分からないんですが、なんか仲良しグループでつくっているのではないかと。やはりその辺の体制も、設立についてもっと幅広い意見が聞けるような体制づくりが必要だと思うんです。そうしないと、さっき出てきた、地域づくりの方向性というのが極一部の人の意見になってくるのではないかなという気がしますので、この辺についての体制についてもやはり評価されるのであれば、体制づくりそのものについてももう少し検討がいると思います。

次に44ページの生涯にわたって元気に暮らす「健康長寿のまち」の中の、1の(4)地域医療体制の充実の中に、へき地医療体制の維持確保。確かにへき地医療という言葉はあるんですが、この総合計画の中で、拠点を都市拠点、地域拠点、生活拠点と3つの拠点到しています。このへき地医療という、へき地というのはどこに当たるのかっていうのが明確でない。むしろ、地域拠点の医療体制の強化という書き方のほうがいいんじゃないかという気がします。というのが、この計画は今から10年間計画するわけです。ある地域によっては今の開業医が80歳を超えている人がおられる。これが10年経つと90歳になる。そのまま存続されるのか分からない。無医村になるようなところもあるのではないかとということを考えると、そういうことを含めて地域医療の体制の強化っていうのが必要なのではないかという気がします。

それから47ページの2行目に、避難所運営体制等の充実というのがあります。運営体制も必要なんですが、避難所そのものの数の充実というのが必要なのではないかと。というのが私は市の統計調査員をやっているとして、先日も国の就業基本調査があり、各家庭をまわりました。今頃は高齢者になって身体の不自由な方、あるいは歩くのもままならないような人がたくさんおられるわけですね。その中で、長生きしなさいよという話をしますと、最近は災害が多いからすぐそういう避難所の話になるわけですね。そうすると私なんか1キロも2キロも離れたところは行かないよという話がたくさん出てくる。だからもう少しそういう高齢者あるいは身体が不自由な方も行きやすいような避難所そのものを一般のところを利用していいので、増やしていくというのが大事なのではないかという気がします。

【会長】

非常に重要な指摘がたくさん届きましたけど、中心市街地の活性化に関して具体的な施策があれば、ご紹介ください。

【事務局】

こちらの中心市街地活性化が、空き店舗の対策支援であったり、まちなか居住だったり、実は他のプロジェクトに記載しているというので、重複感があったので省略したという部分もあります。確かに分かりやすさ、伝えやすさというところも考えまして、少し再掲という形でも表現として伝わるように工夫させていただければと思います。

【会長】

地域づくり協議会については、これは回答求めませんけども、そういう組織の見直しも含めて長期的な検討をしていただくといい。それからへき地というのはあまり良い表現でない私も気がします。

【事務局】

そうですね。へき地医療、行政用語をそのまま使ってしまったという辺りもありますので、やはり市民が見ていただけるように、そして言われたようにへき地医療の概念そのものも、無医村地区あるいは、地域医療の拠点づくりも含めて、へき地医療の概念も広がってきていますので、少し伝わりやすい言葉に修正させていただきます。

【Q委員】

目標となる将来都市像を読ませていただいて、生まれ育った方々が山口市をふるさととして誇りをもてるよう、また一時的に山口にいらっしゃる方にとっても、またもう一度帰って来たい場所だと思っていただける第二のふるさとになるという明るい未来を想像することができました。

次に暗い悲しい話なのですが、先ほどから何回か出てきた湯田温泉の宿泊客数について 36 ページなんですけど、湯田温泉のホテル、旅館の施設数は30年間で1/3以下になっています。その中でも現在旅館という屋号で実質営業されていらっしゃる小規模旅館は5軒しかありません。その中で後継者がいるのは1軒です。なので、この総合計画が達成される頃にはもしかしたら0軒から1軒になっているという今の湯田温泉の現状があります。ただ、宿泊客数にはそういったことは現れてこないの、そういった面でやはり旅館が減るということは湯田温泉の衰退に繋がるのではないかと思うので、ぜひ皆さまにも宿泊客数ということで目を光らせていただきたいのと、頼りない後継者がいたらぜひ発破をかけていただきたいと思います。私はしがらみがない中で商売をさせていただいているので、K委員がおっしゃったような新しい挑戦もどんどんできたらいいなと思います。

【会長】

野原別当も閉じまし、西村屋も、非常に残念なニュースがたくさんあります。それが湯田温泉全体のやはり心配が繋がらないんですね。ぜひ目を光らせていただくといいかもしれません。いま山口大学もカピバラをつかってお湯の効能を調べ

	たり、色んなことをやっています。何かやはりこうやってアピールができるようにやればいいなと思います。 一応全員の方に伺いました。多種多様な御意見をいただきました。ぜひ、この部分を盛り込みながらですね、最終的に1月に仕上げていただきたいと思います。 私聞いていて、やはり27ページに赤字で書いてあります、本市全体の発展を目指す、これは非常に重要なキーワードで、都市核だけが良くなればいいってことでなく、どこにも目を配りますよっていう決意をここに書いてある。それから29ページには、都市核というものを明確にされたということで、山口都市核と小郡都市核は、このような形で都市核をつくっていくという宣言をされた。それから、その下側の赤い字で書いてありますけども、地域のことは地域で解決できる山口らしい地方分権を確立する。山口市はあまりにも大きいすぎて、なかなか目が届かないところもあります。地域の抱える問題をあると思いますから、予算も含め、地域である程度自主的に動けるような、そういう体制をつくっていくといった、新しい御提案のように思いました。そして、先ほど言いましたけど、山口市の絵が描いてありまして、124ページですか。このような山口が持っているリソースと言いますか資源を上手に使う。みんな同じことをやるのではなくて、地域ごとに特長を出したまちづくりというものをそれぞれ地域で考えるということもすごく大事なことだと思います。行政は行政として、当然頑張ってもらんですけど、ふるさとというものを我々がどう考えるか、ふるさとは自分たちで何とかしていこう。温かくて、皆が帰って来られるような、いつも待てるような、そういうふるさとをやっぱり、我々は目指していこうというような意思表示というか、総合計画ではないかと私は思いました。 それでは、今後の日程について、事務局よりお願いします。 【事務局】 資料3にて、小中学生絵画コンクール表彰式、入選作品展示について説明 次回、第7回協議会は、1月31日の14時から防長苑2階にて開催
会議資料	・ 次第 ・ 資料1 これまでの協議について ・ 資料2 第二次山口市総合計画（素案） ・ 資料3 資料編 ・ 資料4 委員名簿 ・ 資料5 配席図 ・ 資料6 意見書
問い合わせ先	総合政策部 企画経営課 TEL 083-934-2747